
2 割付図

Q-15 割付図に関連したトラブルとその責任の所在について解説してほしい。

A

割付図の作成ミスには、製品長さや枚数の誤り、設計図書との不整合などがありますが、これらは作業の安全性や建物の品質に大きく影響を与えるなど、確実にトラブルの原因となります。作成にあたっては、十分慎重に行うと共に、内容を厳しくチェックすることが必要です。

1．製品長さや枚数の誤り

- (ア) 施工開始後に判明した場合は、再製作・再納入となりますが、この間当該箇所の工事が止まるため工程に影響が出る場合があります。また再納入の際に荷取り段取りも必要です。
- (イ) 製品長さおよび枚数は、施工図として重要な情報であり、必ず施工者が責任を持ってチェックすることが大切です。実際の作図は、作図業者やフラットデッキメーカーが行うことが多いのですが、施工図としての最終責任はあくまでも施工者にあります。必ず内容を確認した上で使用するようして下さい。

2．設計図書との不整合

- (ア) これは製品仕様や適用スパンの誤りなどがありますが、製品仕様の誤りについては全範囲に及ぶ場合が多く、影響は非常に大きくなります。仕様については特に注意して作成することが必要です。
- (イ) 施工図が設計図書に整合しているかの確認は、工事監理者が行い、これを承認することとなっています。よって設計図書との整合については工事監理者がその責任を負うものと考えられます。